第15回市議会報告会及び意見交換会要点筆記

記載例

○：市議会報告会での質疑・要望等

→：市議会報告会での回答

⇒：持ち帰りとなったものの回答、及び委員会で協議し再考した回答

牛島コミュニティセンター　　令和８年７月24日(金)13：00～14：00

担当：全議員（司会：河村、大田、小林、清水、田中、田邉、仲小路、中村、中本、仲山、新見、西村、林、藤川、萬谷、森戸、早稲田）

（欠席：井垣）

参加人数　１８人（男性８人、女性１０人）

１　市議会からの報告についての質疑

（１）福祉建設経済委員会

○光市立総合病院と大和総合病院がともに赤字経営とのことだが、自身の体験として、受付で怪我をした際に「まず地元（地域）の病院へ」と案内された。友人で懇意にしている医師に直接頼んで診てもらえたので大事に至らなかったが、そうでなければ対応が遅れていたはず。また別の友人が広島で食事をした後に体調を崩し（嘔吐を繰り返し）、救急車を呼んで光総合病院に運ばれたが、結局地元病院に回された。こうした運用で病院経営が黒字化するとは思えない。

→（ご意見として承り、議員からの回答なし）

（２）総務教育環境委員会

質疑なし

（３）広報広聴特別委員会

質疑なし

２　意見交換会での質疑

○牛島はかつて1,000人いた島民が現在19人。このままでは無人島になってしまう。島民も高齢化を踏まえ静かに過ごしたいという考えの人もいらっしゃるが、島の存続のためには、あえて外部の人を呼ぶ必要がある。定期船の存続を考えても、観光客を増やすしかない。以下を提案したい。

・牛島の祭りの復活（昔のように船と衣装を）

・海産物（魚・サザエ・ウニ・アワビ等）の増産、新日鉄スラグを活用した漁礁整備
・海水浴場の整備、学校跡地のトイレ・シャワー整備
・山道・住民道の整備、ハイキングコース・バードウォッチングコースの設置
・若い漁業者の育成、移住者の募集
・学校跡地の活用（夏のキャンプ場・合宿、体育館・グラウンドの民間とのコラボ、旧教員住宅跡地の整備等）
・特産品（ひじき・塩・ウニ・わかめ・缶詰等）の開発・育成、直売所（牛島の特売所）の設置
・宿泊施設の充実（現状、島に旅館はなく民泊が１軒のみ）、民間投資・協力者の募集
・船着き場の活用（有料でのプレジャーボート・ヨットの受け入れ等）
・学校校舎は倒壊リスクがあるので至急解体を要望
・空き家の多さ、災害時避難路の整備、ヘリポート・メイン道路の整備・船着き場のコンクリートの段差や破損箇所の補修
・高齢者が多いため、２～３ヶ月に一度の防犯パトロール（生存確認・安全確認、民生委員とは別枠で）の実施
・イノシシが家の中庭まで入ってくる被害への早急な対応
・昔の島の様子を聞き取り調査し、記録を保存
・水道設備投資を無駄にしない

→（ご意見として持ち帰りとし、議員からの回答なし）

○有害鳥獣対応、とりわけイノシシについては牛島では深刻な問題であり、どうにか対応してほしい。

→牛島の現状も大変厳しいと認識しており、捕獲隊と連携し、牛島側にも声をかけて、まずは現地の状況を見てもらう。貴重な意見として受け止めたい。

○光総合病院への交通手段について、連絡船で渡った後と診察が終わった後のバスの接続が不便で間に合わないことがある。接続時間の改善を求める。

→貴重な意見として取り上げ、牛島の方に不便がかからないよう議会としても改善を働きかけていく。

⇒牛島から光総合病院への通院において、連絡船と路線バスの接続が十分でなく不便とのご意見をいただいた。市によると、バスダイヤは利用状況や運行全体との調整を考慮して設定しており、直ちに見直すことは難しいとのことである。一方で、島民の移動手段、とりわけ通院時の利便性確保は重要な課題であることから、市に対して利用実態を踏まえた改善策の検討を働きかけていく。

○道路が凸凹で舗装も老朽化して、高齢者にとって負担が大きいため早急に整備をしてほしい。

→指摘の箇所を確認し、市道の部分は整備をしていくように働きかけていく。

○イノシシによる農作物被害（スイカ・カボチャ・大根・白菜等）が深刻で、畑がほぼ作れない状況なのでどうにかしてほしい。

→イノシシ被害の深刻さを実感した。感覚的な頭数や頻度について、増加傾向にあるとのことで理解した。

○家を買ってもほったらかしで、管理されていなので空き家になっている。周りに迷惑なので代執行してほしいと言ったが、出来ないとのこと。市が整備しやすいように法整備してもらいたい。

→しっかり話をしておきます。

○何年も帰らないままで空き家になっているので、草木などが屋根の上まであがり、隣家に影響が出ている。所有者の連絡先が分からず対応に困っているがなんとかならないか。

→具体的に空き家の所有者等について聞かせていただければ、役所で所有者を調べてお手紙を出してみたい。

→空き家に関しては、自治会経由で市の生活安全課に相談すれば、危険空き家として取り扱われるケースがある。また、危険空き家に認定されれば、段階に応じて行政代執行につながる仕組みがあり、危険な部分があれば市に伝えてほしい。

○牛島漁港について、組合の運営が縮小し、電気代（電灯・防波堤の照明等）の負担がたいへんになっている。これから何年やれるか分からないので、その後のことをお願いしたい。

→漁港の管理は市の経済部が担当しているが、この問題は今回初めて具体的に聞いた。牛島の漁港の管理が継続できるよう、提言を受け止める。

塩田コミュニティセンター　　令和８年７月26日(日)10：00～12：00

担当：A班（班長：仲小路、司会：西村、井垣、河村、清水、田中、中村、中本、森戸）

参加人数　２０人（男性１０人、女性１０人）

１　市議会からの報告についての質疑

（１）福祉建設経済委員会

○光市でも特に塩田地区は人口が減っている。去年も同じような話があったと思うが、視察内容を「認識した」で終わらせず、今後どう具体的に活用するのか。少子高齢化が進む中、他市の良い施策をどんどん取り入れて、具体化してほしい。

→議会としても「認識した」で終わらせず、一般質問や委員会質問を通じて執行部に提案し、具体的に進めていく。特に光市は情報発信の弱さが課題であり、移住・定住施策自

体はあっても県外・市外の対象者にうまく届いていない。他市の情報も活用し、具体的に推し進めていきたい。

○市立病院の経営が難しいと聞いているが、患者が増えれば改善するのか。あるいは患者が増えすぎると人件費で経営が成り立たなくなるのかどちらなのか。それから、市立病院を受診しようとした際に「まず地域の病院へ」と言われ、地域病院に行ったが、そこで重症と判明してまた別の病院を紹介されて行った経験がある。また別の機会には紹介状を持っていなかったために地域病院との間を往復させられ、結果的に肺炎で入院となった。病院間でＦＡＸやメール等での連携により、市民が行ったり来たりしなくて済む方法を検討してほしい。あと、移住問題について、岩田駅が使いづらく不便との声が多い。岩田駅前に無料か安価な月極駐車場があれば、室積等から通勤する人が駅を利用しやすくなり、移住・定住の後押しになるのではないか。

→病院経営について、基本的には患者数（外来・入院とも）を増やす必要があるが、最大の課題は医師の確保である。医師が確保できないと受け入れ人数も減る。それと同時に今、経営コンサルティング会社の助言のもと、人員配置や業務範囲の見直し等でコスト改善も並行して進めている。「患者数を増やせば単純に黒字になる」わけではないが、増患と医師確保はセットである。それから、病院の対応について、総合病院は重症患者・紹介患者を優先する役割上、軽症は地域病院へ案内することがあるが、なぜそのような案内をしたのか丁寧に説明し、安心して相談できる体制づくりが重要だと今回の意見で感じたので、議会として病院側に伝えていく。また、岩田駅の活用について、コンパクトシティ構想の観点から駅周辺の利便性向上は県の大筋の方針であり、ポテンシャルを踏まえ、具体化を加速する必要があると議会としても伝えていきたい。

（２）総務教育環境委員会

○「書かない窓口」は市民側からの要望からなのか、国のデジタル化施策が先なのか。

→全国的にデジタル技術を活用した行政運用への流れがある。市民の方が証明書の申請時に印鑑を押す手間を省くということが、全国的な方針であるということで、マスコミ等を含め情報提供している。

○マイナンバーカードを持っておらず、どちらも利用できるようデジタルが苦手な人への配慮もしてほしい。

→現状では厳しい面もあるが、そのことも含めて執行部へお願いしてみたい。

○空き家対策で18件という報告があったが、これは地域住民から情報を集めているのか。

→令和元年度から調査を実施し、危険な空き家の増加を確認している。今回は、18件の情報が寄せられ、このうち６件の管理不適切な空き家があった。空き家は今後も増加傾向にあり、適切な管理のお願いについては、生活安全課からの空き家対策促進事業の案内を固定資産税の通知書と一緒に文書で送っている。

○避難所関連について、塩田地区はハザードマップ上、土砂災害の危険箇所が多いが、土

嚢が市役所等に常時保管されており、緊急時に取りに行く手間がかかる。非常時に間に合うよう地域内で対応できる体制を整備してほしい。

→市内全域にレッドゾーン相当の危険な地域があり、各地域に土嚢を設置しているが、土嚢袋をコミセンに取りに行き、その場で自ら土砂を詰める必要があり不便だという声を聞いている。行政に働きかけていきたい。

○空き家がどんどん増えているようだが、空き家対策事業はどうなっているのか。

→令和元年７月に調査を始めた。令和２年の調査時点で建物約３万2,800戸のうち空き家戸数1,140戸、空き家率３．５%だったが、その時と比べ現在は倍程度に増加している。危険空き家の解体補助制度はあるが、要件に合致する空き家に限るため利用は少数で、今後補助金増額も含めて検討課題である。

（３）広報広聴特別委員会

質疑なし

２　意見交換会での質疑

○自治会内にあった建設事業所の跡地について、既に数年前から廃屋状態である。地方紙掲載の市議会一般質問を拝見すると「廃校活用事例集」を紹介されていたが、民間施設でも行政が地域とＮＰＯ法人を結びつけ活動拠点化できないか。そうすれば、同じ自治会内の小中一貫やまと学園と連携した生徒の活動の場としての活用をできるのではないか。財源はクラウドファンディングや企業募金、命名権の活用によって地代の交渉コスト低減も図ることができるのではないか。

→建設事業所の跡地は完全に民間で行政とは切り離された話にはなるが、学校を中心としたまちづくりの観点から貴重な意見として受け止め、議会として今後何かできないか検討していきたい。

○人口減少・高齢化について、災害特別警戒区域内では建て替えが難しく転出の一因になっているので、規制緩和を検討してほしい。また、塩田コミュニティセンターを含めた、廃校跡地活用の進捗・今後の見通しを聞きたい。

→災害特別警戒区域の規制緩和は市独自の緩和は難しいが、区域指定が現状に合っているか、安全対策を講じれば建築余地がないかを県・市に確認し、改善できる点がないか働きかけたい。

→廃校跡地について、１階は地域の方に使っていただくこととしているが、２階は活用方法を新しいコンサルに依頼して検討中なので、もうしばらくお待ちいただきたい。

○市民の安心・安全を守るという観点から、中間貯蔵施設・原子力発電の問題について議員の考えを聞きたい。それと、塩田コミュニティセンターについて、災害指定区域内にあり老朽化後の建て替え展望がないなら、地域から避難場所自体がなくなってしまうので、残す方向で考えてほしい。

→中間貯蔵施設・原子力発電については、市議会報告会の場は議会としての発言が原則であり、個人の見解は極力控えることとしているので、運営上ご理解いただきたい。ここではまず、コミュニティセンターに関連するご意見をまとめて伺いたい。

〇学校を廃校にして公共施設に使うというのは、全国に多数の先行事例があると思う。学校でなくなったら今までの浄化槽が使えない、合併浄化槽でなきゃダメだというのは検討の段階から分かっているはずなのに、今になって「ダメだった」と先延ばしされているように感じる。先行事例をよく把握した上で進めるべきではないか。

〇コミュニティセンターとしての２階の活用は令和８年の予定だったが、また１年延びているのが現状。その中で浄化槽と一緒に工事しようとしていると思うが、仮設トイレを長期間使い続けるのは不便なので、浄化槽工事は切り離して先行して進めてほしい。

〇外にあったトイレが老朽化で撤去されたままで、いろいろな大会等の際に不便である。中・外別にトイレを設置してほしい。また使用禁止になっている遊具について、使えるようにしてほしい。

〇この会議室の後ろに本があるが、ここが使用中だと簡単に借りれないので、図書館だったところに本を置いて自由に借りれる場所を造ってほしい。人がいれば人件費がかかるので、返すだけの返却ボックスを設置してほしい。

〇２階の活用について話があったが、高齢化が進むと階段の昇降が難しくなる。１階の玄関左側の職員室を活用する形の方が高齢者向きではないか。

〇民間活用ということで、２階・体育館・プールの活用が、もしだめだった場合どうなるのかが心配。地元として「絶対に残してほしい」という声があるのことを肝に銘じてほしい。

〇体育館は次の使い道が決まるまで、地域の健康福祉のために暫定的に使わせてほしい。また、ＪＡ跡地を駐車場として借用しているがいつまで使えるか分からないので、使えなくなった場合の駐車場不足が懸念される。体育館隣のプールを潰すのなら、その跡地を駐車場化すれば30台ぐらい確保できるのではないか。

→トイレ・遊具・２階の使用・図書・体育館・駐車場等、多数の意見をいただいた。一つ一つを個別に解決するのは難しいが、委員会で検討しながら整理して、まとめることになる。今回いただいた意見を大事にして、今後の検討材料として生かしていきたい。

→令和７年６月の説明会で塩田小学校跡地の利活用に関する市の方向性が示され、どういう形でコミュニティを残していくかということで、２階はコミュニティセンター、３階は体育館・プール等を含めて民間活力ゾーンという説明があった。また、グラウンド・プール・体育館の一部は民間の所有地だったが、市が予算をつけて買収し公共用地化した。民間活力を導入しながら、コミュニティ機能を残すことは住民の皆様との約束だと認識している。

〇道路の白線が見えにくいので、何とかできないか。

〇防災行政無線が聞こえづらい。若い世代はネットで確認できるが、高齢者は手段がない

ので、緊急度に応じたサイレンの区別等のルールを設けてほしい。
○県道が生活のメイン道路になっているが、信号や横断歩道がないうえに、交通量も多く・スピードも出ているため、南北の横断が困難なので、改善できないか。
→防災無線が聞こえにくいのは市内全域の課題である。スピーカーは物理的に届く範囲にも限界がある。代替手段としてLINE・メール配信サービス、また高齢者向けには自宅電話への電話通知サービスがある。市への手続き申請で電話登録が可能だが、周知が行き届いていない部分があり、改善していきたい。
○自宅前の市道の状態が非常に悪く、応急補修のたびに新たな凸凹になっている。予算的な事情も理解するが改善を検討してほしい。また高齢のため運転をやめ、２か月に１回通院するのに市営バスを利用しているが、往路は乗れても復路はタクシーを使わざるを得ない。市営バスの便数・予約制の改善、また運転手のマナー（手を挙げても止まらない等）の改善を求める。夕方以降はタクシーも大和駅周辺で客待ちしておらず、２時間歩いて帰ることもある。
→市内各地区で白線の薄れは順次対応中である。横断歩道については通学路合同点検会議の時に声を挙げてもらえば、検討の対象になると思う。また、道路の凸凹箇所等については具体的な場所を教えてもらえれば改善を提言できる。市営バスの運転手の対応については確認し、改善を伝えたい。夕方以降のタクシー不足についても現状を確認し、改善に向けて動きたい。
○佐田老人憩いの家の跡地が通学バスの待機所になっているが、大雨時に水たまりが増加し、子どもが水たまりで遊んでいたと聞いたので、バラスを引いて欲しい。
→また、詳しい場所を教えていただければ、対応を検討したい。
○避難場所である塩田コミュニティセンターに大和中学校の生徒が調査に来た際、備品は何があるのか聞かれ返答に困った。毛布・段ボール等、何もないのに避難場所に指定されている。防災備品（赤外線暖房・発電機・炊き出し用釜等）は今後コミュニティセンター等に配備予定とのことだが、まず基本的な備品を先に整えるべきではないか。また、地震や土砂災害等、災害種別で避難所指定が異なることが分かりにくい。
→災害の種別によってどこが自主避難所になるか等、一覧表が手元にないので明確に回答できない。確認、調査して回答する。
⇒塩田地区の自主避難所は、大和コミュニティセンター。指定避難所は、基本的に旧塩田小学校体育館。洪水及び土砂災害の場合の指定避難所は、大和コミュニティセンター。
○県道、石城山公園線だが、この間の大雨の時、道路に土砂が流れ、暗渠が詰まったので地域のものが集まって汲み出したが、家が建っているので、救い上げた泥を持っていく場所がない。県道でもあるので、ちゃんと土砂を処理できるような体制を整えていただきたい。
→具体的な場所によって県・市どちらの管轄か異なるため、場所を確認の上、調査して回答したい。

○石城山には石城神社や神籠石等観光スポットがあるが、野外炊飯等も荒れ放題で全く整備されてないし、山道の崩れで観光バスの通行が困難になっている。せっかくある史跡なので整備・活用を進めてほしい。

→石城山の本殿については、何年か前に国の補助をいただいて改修したことがあったと思う。トイレも市の経済部の方でやったと思う。一度どういう状況になっているのか、現地を確認してみたいと思う。

東荷コミュニティセンター　　令和８年７月26日(日)10：00～11：50

担当：Ｂ班（班長：新見、司会：林、大田、小林、田邉、仲山、藤川、萬谷、早稲田）

参加人数　１０人（男性８人、女性２人）

１　市議会からの報告についての質疑

（１）福祉建設経済委員会

○行政視察で得られたことをこれから委員会で研究を重ね提言するとのことだが、今後具体的にどのようなことを考えているのか。光市に有効なことがあれば聞きたい。

→光総合病院及び移住・定住施策の先進自治体である香川県まんのう町、愛媛県東温市を視察した。光総合病院については経営上の課題を踏まえ、委員会内で改善について協議し、９月議会で２年間の報告を出す予定である。移住・定住・人口減少についても重要な問題となっているが、視察で得た知見を精査し、報告しようと思っている。

○視察で得られた知見を活用し、９月議会で一般質問を行う予定はあるか。

→移住・定住対策については、これまでも一般質問や委員会で多く取り上げられている。今後は９月定例会の決算審査を通じて、各施策の成果や効果を検証していきたい。

（２）総務教育環境委員会

○今年からごみカレンダーの文字が小さくなったので見づらい。それから、ペットボトルが週１回から２回に増えている。市長との懇談会で夏場は多く出るので回数を増やしてほしいということでお願いしたらすぐに実現したが、市民の声を引き続き市政へ反映してほしい。また、「書かない窓口」という話があったが、遺族が手続きを一括で行える「お悔やみ窓口」の設置を検討してほしい。

→ごみカレンダーの見づらさについては、他の市民からも意見が寄せられている。議会として執行部へ改善を求めていく。また、「お悔やみ窓口」については、現行の手続き状況を確認し、市民の負担軽減に向けて調査・検討を進めていきたい。

→市民が市議会や市へ意見を届ける仕組みは設けられている。市民の声を踏まえた改善も進められており、今後も寄せられた意見を真摯に受け止め、必要な対応を検討していく。

○空き家管理に関する課題が深刻化しているが、光市の具体的な空き家対策はどのように

なっているのか。

→危険な空き家に関する情報は、個人や自治会を通じて市へ提供することができる。市は所有者を特定し、適正管理に向けた指導を行っている。改善が見られない場合には行政代執行も選択肢となるが、まずは所有者への働きかけを基本としている。今後も危険空き家の減少に向けた取組みを進めていきたい。

（3）広報広聴特別委員会

質疑なし

2　意見交換会での質疑

○束荷地区では、農業従事者の高齢化や後継者不足により、農地保全のための草刈り作業が大きな課題となっている。地区内組織の連携・統合を進め、草刈り作業に特化した組織体制を構築するとともに、必要に応じて行政による支援を検討してほしい。

→今のお話は、全体的に要望として、受け止めたいと思います。

○教育関係について、１つ目は部活動の地域移行について、練習場所が大和中であればいいが、送迎をどうするのかというのが大きな課題ではないか。２つ目はタブレット端末・ＡＩの活用について、私は必要と思っているが、使い方によっては大きな問題が出るのではないか。小学校・中学校で、どのような指導をしているのか。３つ目は不登校支援の取組みについて、不登校は30日以上という事だが、30日未満もいる。それを市はどこまで指導しているのか。

→部活動の地域移行に伴う移動手段については、ファミリーサポート制度の活用が可能だが、課題も残されている。今年度から本格実施されていることから、運用状況を注視しながら調査研究を進めることになる。また、タブレット端末やＡＩの活用については、児童生徒の成長への影響も踏まえ、情報モラルや情報リテラシー教育を実施している。社会環境の変化を踏まえながら、今後も適切な活用方法について検討していく。不登校対策については、教育支援センター「まなびばひかり」を設置し、学校や家庭以外の学びの場を提供している。また、スクールカウンセラーによる相談支援などを通じて、学校復帰や社会的自立に向けた支援を行っている。

→地域クラブ活動の移動支援として、１回500円で利用できるファミリーサポート制度が運用されている。タブレット端末やＡＩ活用については、児童生徒だけでなく保護者を含めた大人への啓発も重要であるとの認識が示されている。また、不登校児童生徒への支援については、スクールカウンセラーや各種支援員を配置し、卒業後の進路支援も含めて継続的に調査研究を進めていきたい。

→不登校対策をやる最終目的はどこか、一般質問で問いかけたことがあるが、卒業した後どうなのかということを最終的に気にしてると教育委員会は答えているので、そこに向けての働きかけをこれからもしていくことになる。

○上関町に計画されている使用済燃料中間貯蔵施設について、光市議会のスタンスはどのようになっているのか。

→光市議会では、一般質問において複数の議員が取り上げているが、議会としての統一した見解を示す段階には至っていない。現時点では、議会として総意を形成することは難しい状況である。

○上関町の使用済燃料中間貯蔵施設については市民の安心・安全に対する不安に応える姿勢を、光市議会としても示してほしい。

○年１回は束荷地区住民の意見を聴取し、行政へ届けてほしい。また、「光市家庭用ＬＥＤ照明買替サポート補助金」について、申請初日の待ち時間が約４時間に及んだ。受付体制の強化を図ってほしい。それから、「光市物価高騰対応市民生活応援商品券」については、他自治体の事例も参考にしながら、迅速に発行してほしい。それと、熊対策について、より迅速な対応を行うとともに、目撃情報がある場所への防犯カメラ設置を検討してほしい。最後に、小学校前の道路及び農道の下り坂において、速度を出して走行する車両があり危険であるため、安全対策を講じてほしい。

→「光市家庭用ＬＥＤ照明買替サポート補助金」の申請時の待ち時間の件については、持ち帰って市の方に報告したい。

→熊対策については、６月議会における補正予算で20万円を計上し、県と連携して対応を進めている。防犯カメラの設置については、現時点で未定である。また、商品券については、「まだ届いていない」との意見が各地域から寄せられたので、委員会としても、今後同様の事態が生じないよう、迅速な対応を求めていく。それから、市道に関する危険箇所については、束荷地区で寄せられた意見として市に伝えたい。

○岩田駅周辺で工事中の通学路について、中学生は登校時には歩道を利用しているが、下校時には車道を走行して危険だと思う。スポーツ公園までは歩道を利用できるようにしてはどうか。

→通学路については、各小中学校において課題を抽出し、毎年、警察や関係機関による合同安全点検を実施している。その結果を踏まえ、必要な対策について協議が行われている。今回の意見についても、安全対策の検討材料になるものと考えている。今後もお気付きの点があればお寄せいただきたい。

○沖縄県から光市へ移住してきた方の隣家が、いわゆる「ごみ屋敷」の状態であった。視察された所では200万円の補助があるとのことだが、光市として対策はあるのか。

→私たちが視察したところでは200万円の補助が出るが、光市ではまだそこまで拡充していない。ただ、光市でも移住・定住に関するさまざまな施策を実施している。今後は移住者への生活支援や相談体制の充実も必要であると考えているので、議会としても必要な提案を行っていきたい。

○生活道の整備について市にお金のことで相談したが、できないとのことだった。なんとかならないか。

→法定外公共物、いわゆる赤線、青線は自治会に補助が出て、その地域の方が協力してやるという制度がある。しかし、今問題となってるのは、やる方が高齢化してやり手がないというところである。そういったところも、きめ細かくできるように訴えていきたい。

○上関町の中間貯蔵施設について、議員一人ひとりが賛否や考え方を示し、光市としての立ち位置を明確にしてほしい。

○束荷地区をモデル地区として地域計画を策定し、農業の安定的な経営方式の導入を検討してほしい。

○防災行政無線が聞こえにくいので、スピーカーを増設するとか検討してほしい。

→防災行政無線については、「聞き取りにくい」との声が各地域から寄せられている。一方で、設備を増設すると音声が重なり、かえって聞き取りにくくなる課題もある。そのため、市ではスマートフォン等を活用した文字・音声配信の充実を進めている。内容が不明な場合は防災担当へ問い合わせることで確認できる。また、防災無線の内容をラジオで受信できる機器の導入についても議会で取り上げられているが、実現については今後の課題となっている。

○議員一人ひとりが積極的に個々の意思表示を行い、市民の意見を確実に執行部へ届けてほしい。また、議会だよりには、各議員の考え方や意見が市民に伝わるよう詳しく掲載してほしい。年に１回は報告会等で各地区に足を運び、状況を的確に把握してほしい。

中島田コミュニティセンター　　令和８年７月28日(火)18：30～19：58

担当：A班（班長：仲小路、司会：中本、井垣、河村、清水、田中、中村、西村、森戸）

参加人数　６人（男性４人、女性２人）

１　市議会からの報告についての質疑

（１）福祉建設経済委員会

○光総合病院は４月から病床が減少し、初診料（紹介状なしの追加負担）に関する運用が変わったと聞いた。その結果、受診者数は増えているのか。

→市立病院はかつての「昭和型」の総合病院から、現在は「急性期」病院として位置づけが変化している。国の方針で、各市が個別に高度医療を抱えるのではなく、周南医療圏域という広域の枠組みで超急性期・急性期・回復期等の役割分担を行う体制に移行している。光総合病院はその中で急性期のランクに位置づけられ、病床削減はその一環で、地域の医療機関との役割分担により、最初の救急対応は他院で受け、その後、光に戻る、あるいは光が地域包括ケア病棟で他地区の患者を受け入れる、という体制になってきている。受診者数は見込みとして「少し増える」と想定している。

○移住・定住について、若い世代に住み続けてもらうための具体的な取組みとして、どういう事を考えているのか聞きたい。

→新築・建売住宅取得への補助として、国・県連携の最大500万円程度の支援制度（要件該当時）など金銭面の支援がある。また、地域おこし協力隊の活用、ＳＮＳでの住環境ＰＲ、小中一貫校（大和学園）等の教育環境整備の発信も進めている。今回のまんのう町・東温市の視察は、制度のさらなる充実や伴走支援の必要性を学ぶ機会だった。

○若者は都会に出ると帰ってこない。働く場所がないと戻らない。台湾企業誘致等で雇用が増えた熊本の例もある。情報発信だけでは弱く、下松市は人口が増えている実態もあり、雇用の有無に関しては住民税等にも影響しているのではないか。

→山口県事業として新しい工業団地の整備に光市も協力して取り組んでいる。他県の半導体工場誘致のような規模には及ばないが、雇用の重要性を踏まえ今後も取組みを進める。

（２）総務教育環境委員会

○ごみ出し困難者への戸別収集支援について、人手不足の中でどのように人材を確保するのか。海外の人材を活用する仕組みなどはあるのか。

→これから、ごみ出し困難者が介護認定者か要援護者か障害者か等の対象区分けを実施する必要がある。想定として約４万６千人の人口規模から見込み数を試算しており、現状の環境事業課の人員範囲内で対応可能との見込みで進めていると思う。

（３）広報広聴特別委員会

質疑なし

２　意見交換会での質疑

○市議会報告会の福祉建設経済委員会の報告で、高齢者福祉について一度も取り上げられたことがない。高齢者・認知症等の問題が増える中、議会としてこの分野をどう扱っているのか。市の地域包括支援センターや地域の社会福祉協議会任せなのか。

→本日の資料はあくまで委員会が実施した視察の報告に限ったものであり、高齢者福祉・介護の問題は委員会の中で別途しっかり質疑・取組みを行っている。市では地域包括支援センターを中心に介護予防事業・認知症施策・見守り活動・在宅医療介護連携・生活支援サービス等に取り組んでいるが、十分とは言えない。介護人材確保・移動手段・介護支援等の課題もある。今後も高齢者福祉の問題については取り組んでいきたい。

○小中一貫校整備について、島田・室積地区は２期での着手予定だったのに、浅江中学校が先行したのは納得できない。島田中学校は築約60年、上島田小・周防小は既に児童数が１～２名という極めて深刻な状況。統合しなければ立ち行かない状況であるが進捗状況を聞きたい。

→浅江中学校は大規模改修の時期にあたり、改修の代替として光丘高跡地への移転を行ったもので、小中一貫校の順番を前倒ししたわけではない。整備は令和４年策定の20年計

画に基づき、第１期大和、第２期室積・島田、第３期浅江・光井の順である。島田地区は複式学級の状況等、緊急性を認識しており、地元の意見を聞きながら対応を検討しているところである。

○大和・光の両病院が赤字となっているが、光市は将来的にどうしていくのか。

→長期ビジョンはまだ策定できておらず、現状は経営改善が中心となっている。総務省アドバイザーの助言で光総合病院は199床へ病床削減し、今年度は両病院にコンサルタントを導入して赤字解消を目指している。大和病院は一般病床50床を障害者病床に変更し、年間約2,700万円の収支改善を見込んでいる。議会としては９月発表の決算をチェックしていく。

○光市は他所に比べてごみの分別が難しい。少しでも減らす方法はないか。

→可燃ごみは周南３市・不燃ごみは下松市と共同であり、とも広域施設を利用している。施設がある間は収集方法の変更は困難である。個別収集等のごみ出し支援はこれとは別の取組みとして、高齢者・障害者等ごみ出し困難者向けに提言中である。

○若者がＵターンしないのは働く場所の少なさに加え、遊ぶ・楽しむ場所の少なさも一因ではないか。特に製鉄前交差点周辺は空き家・老朽化が目立つ。若者が楽しめる街への活性化策を聞きたい。

→虹ケ浜にぎわい創出事業として、松林内での常設施設設置を可能にする制度改正を県と協力して実施し、民間２社が今年度からアクティビティ施設・子ども向け遊び場等を展開中。製鉄前交差点周辺は民間所有地が多いが、壁の剥落など危険な状態も見られ、中心市街地の賑わいづくりとして継続して提言・質問に取り組んでいく。カフェや雨天でも遊べる施設のニーズは把握しており、今後の取組みに生かしていきたい。

○まず、災害時の避難場所について、三島コミュニティセンターができるまでは、島田中学校の体育館が自主避難場所として活用できたが、三島ができてからは使えなくなった。中島田は地域づくり支援センターに行かないといけない。土砂災害時以外の時は、島田中学校の体育館を避難所として使えないか検討してほしい。それから、高齢化に伴い認知症は今後さらに増加する。以前は小学校児童を含めた認知症の勉強会が盛んに行われていたが、現在はほぼ行われていない。地域包括支援センターが進めている「チームオレンジ」の取組みを進めてほしい。

→災害の種類によって使用できる避難所が異なり、島田中学校は土砂災害の時は使えないという状況だが、周知が分かりにくいという課題がある。災害時にどこに行けばいいのか、より分かりやすい避難所の周知方法を検討し提言していく。

→市として認知症サポーター養成講座、認知症カフェをいろいろな地域で行っているが、若い世代の参加はまだ少ない。ご指摘の通り地域で支える体制づくりが重要であり、市だけでなく地域を巻き込んだ啓発強化に議会としても取り組んでいきたい。

○土砂災害で島田中が避難場所で使えないのはなぜなのか。

→島田中そのものが、ハザードマップで危険箇所に指定されていて、避難場所として使用

できないという状況であり、その旨ご理解いただきたい。

周防コミュニティセンター　　令和８年７月28日(火)18：30～19：57

担当：Ｂ班（班長：新見、司会：大田、小林、田邉、仲山、林、藤川、萬谷、早稲田）

参加人数　１０人（男性６人、女性４人）

手話通訳　山口県聴覚障害者福祉協会

１　市議会からの報告についての質疑

（１）福祉建設経済委員会

質疑なし

（２）総務教育環境委員会

○避難所の防災備品（スポットクーラー・赤外線暖房機等）はすでに全ての学校に配備されたのか。

→スポットクーラーは26台を全小中学校13校に２台ずつ配備済み。赤外線暖房機は７台購入するが、本年度で全校配備かについては、手元に詳細資料がないので、正確な配備のスケジュールは即答できないが、最終的には必要な全箇所への配備を方針としている。

⇒赤外線暖房機は、光井小、三井小、周防小、室積中、島田中に各１台、浅江中に２台を、遅くとも令和８年11月下旬までに配備する予定。

（３）広報広聴特別委員会

○議会だより29号に公用車として電気自動車（ＥＶ）を導入とあるが、なぜガソリン車ではなくＥＶなのか。充電設備等の追加コストがかかり、税金の無駄遣いではないか。

→ご意見として承り、担当部局に方針を確認し整理する。

⇒民間提案制度により、公用車の運行データを分析し、台数適正化による合理化ができた場合に電気自動車を導入するという事業であり、公用車を全て電気自動車にするという方針ではない。

２　意見交換会での質疑

○上関町の原発・中間貯蔵施設の問題について、光市（議会・行政）としての姿勢や情報発信が届いてこないのが残念。牛島は中間貯蔵施設候補地から７～10㎞圏内にあり、周辺自治体（柳井市・平生町・周防大島町等）でも反対の意思表示や議論が進んでいる。議員として、感想だけでも伺いたい。

→中間貯蔵施設・原発問題については、市長は「施設ができることはマイナスだ」と表明しているが、賛否は住民・議員それぞれの立場があり、80%賛成とか、50%賛成とか一様ではなく、両手をあげて賛成の人はいないと思う。周辺市町の反対決議も僅差のケース

が多い。国のエネルギー政策との兼ね合いもあり、単純に賛否を決めがたい難しい問題という認識である。今後、上関町・中国電力の動向を注視しながら対応を考えていきたい。

⇒賛否については、議員それぞれの立場があり、自分の考えを示し一般質問をおこなっている議員もいます。上関町の使用済み核燃料中間貯蔵施設については、令和５年９月に意見書案が提出され議会運営委員会で協議しましたが、全会一致に至らず本会議への上程を見送った経緯があります。

○新工業団地の整備に関連し、平成30年７月豪雨の際に虹川地区周辺で内水氾濫（床上・床下浸水）が発生した経緯があり、団地舗装化で雨水が地表を流れ、虹川に集中すればさらにリスクが高まるのではないか。また、工業団地の社員住宅を光市内の周防地区等に誘致すれば人口増加にもつながるのではないか。

→平成30年７月豪雨での浸水被害は議会でも認識しており、公用施設整備の際の水回り対策について質疑してきた。内水対策は市の管轄、外水（河川氾濫）対策は県の管轄という役割分担があり、想定外の豪雨リスクも踏まえて安全対策を発言していく。

○新工業団地の説明会で地元の活性化ということが挙げられていたが、まず活性化のためには人を増やすことが重要である。地区活性化のために、工業団地を作るより先に住宅（宅地）を整備すべきではないか。

→委員会でもこの地域活性化について意見交換しているが、なかなか思うようには進んでいない状況である。議員からも要望を続けている。

○市街化調整区域の指定について、10年以上前から市街化区域にしたらどうかという話があるが進んでいない。開発許可や農業委員会等の許可手続きに時間がかかり住宅が建てづらい。市街化区域になると、下水道・側溝など整備が進み、住宅が増えるのではないだろうか。

○市街化調整区域の指定解除の可能性について訊きたい。

→市街化調整区域・市街化区域の指定は県の権限。市からの要望で県が調査し見直す余地はあるが、現状では容易に外せない状況。市としてはコンパクトシティ化の方針の中で重点的に整備を進めている。工業団地整備によって人口が増え、学校等の存続にもつながれば、結果的に調整区域指定緩和の議論にもつながるのではという見立てだが、現時点で具体的な見通しは立っていない。

○工業団地を作るより、先に住宅が出来たら工業団地に通えると思うが、それは出来ないのか。

→仕事があれば、通いやすいように家を建てることになると思うので、まず雇用を生み出さないと活性化につながらない。工業団地ができるということは、この地域にとって前向きなことだと思う。

○光市役所本庁舎はたいへん老朽化しているが、建て替え時期の見通しを聞きたい。

→今日も熊本で地震があったが、「あのクラスの地震が来たら庁舎は持たない」と言われ

ている。今年度から具体的な検討セクションを設置し、市民アンケート等を開始した段階である。具体的な建て替え計画・時期はまだ示されていない。

○小中学校再編について、大和地区は具体的に進んでいるが、島田中学校区（四小学校と島田中学校）の統合はどこまで決まっているのか。

→島田中学校区四小学校・島田中学校を一つの学校にする方向で今年度から動き出している。大和地区の例に倣い、地域の学校運営委員会・保護者との協議を開始している。具体的な内容やスケジュールはまだ示されていない。

○ごみの分別ルールが外国人住民にとって分かりにくい。通訳を交えても伝わらず、困っている。特に黄色の袋は分別が大変なので簡素化してほしい。

○ごみ減量推進員は、説明を聞いて知っているが、出前講座などを積極的に行うなど、外国人も含め市民に広く周知を図ってほしい。

→コミュニケーションの課題は他地域からも多く聞いている。光市のごみ処理は周南地域の広域施設と連携しているため、分別方法の単独簡素化はすぐには進められないが、外国人向けの日本語講座等の機会に分別案内を組み込むよう提案していきたい。

○分別違反の残されたごみを再度収集に来てもらうようにするためには、申請用紙を市に取りに行って、ごみを写真撮影し、自治会内に回覧して持って帰る人がいなければ申請して回収という煩雑な手順になっているが、改善して欲しい。ごみ袋に番号枠を印刷し、各自治会で個別番号等を記入することで、違反ごみを出した人が特定しやすくなる案を過去に何度も提案したが実現していない。

→違反ごみへの自治会番号枠の提案は初めて聞いたが、良いアイデアだと思うので実現に向けて研究し、委員会としての提言につなげたい。

○観光ＰＲとして、虹ヶ浜や象鼻ヶ崎等にお天気カメラを設置し、テレビの天気予報コーナーで定期的に紹介してもらってはどうか。

→ご要望として承る。

○原発よりもアンモニア発電等の代替エネルギーの可能性について考えたらどうか。

→電気は誰かがどこかで作らなければならず、原発以外にアンモニア発電等も代替の選択肢として期待している。

○ごみ出し困難者の戸別収集はいつ頃から始まるのか。誰が担当し、どのように実施されるのか対象と時期を知りたい。

→戸別収集は他自治体の視察を踏まえ検討し、６月議会で提言済みである。対象年齢等の条件は他地域の例を参考に、今後市が検討することになると思う。ハードルが低くなるよう働きかけていきたい。

○ごみ出しルールの周知についてだが、自治会加入率の低下に伴い、広報紙が届かない世帯が増えている。残った違反ごみを入れるごみ袋も自治会費から出している実態があり、市の方でも自治会未加入世帯へ周知してほしい。

→自治会だけでなく市民全体への情報周知に改善の余地があると認識した。持ち帰って検

討する。

○旧浅江中学校のグラウンドが、保育園の夏祭りや運動会等で駐車場として使えなくなり支障をきたしている。以前は使えていたのに今年は使えなかったので、経緯を知りたい。

→グラウンドは県有地で、光高校サブグラウンド扱いになっているが、現状を調査した上で対応したい。

○旧浅江中学校の校舎の方は市のものだと思うが、今後どうするのか。

→今、市の方で検討を進めている。

アンケートでの意見・要望等

（牛島コミュニティセンター）

○毎年、続けてほしい。

（塩田コミュニティセンター）

○塩田も上と下とでは距離が違いますが、塩田下の方がタクシーをお願いすると、売り上げが上がらないと断られた。老人なので車が乗れない。どうにかしてほしい。

○病院、空き家対策、移住定住についても踏み込んだ核心部分がよく伝わらなかった。こういう意見が出たということで、又先延ばしになり終わってしまうのではないかと感じた。

○議員さんは報告会でいろんなことを得るより、もう少し足を運んで色んな事に目を向けて感じ取ってもらいたい。

○市の問題、地域の問題山積です。こういう意見交換会を今後もやってほしい。

○とても有意義な時間でした。今日の意見がそれぞれ解決できたらいいと思います。よろしくお願いします。

○道路側の草刈りで、中岩田のトンネルの前までは草刈りされているのに、塩田に入ると道路の草刈りがしてない。自分の家の田んぼの前の道路の草刈りは市道なのにされてない。毎回自分が管理するのはおかしいと思う。光市内同じ塩田と思うけど。島田とか、きれいに年三回くらい業者が刈っているのにと思った。

○塩田コミセンを将来にわたって守っていただきたい。

○空き家対策、移住対策をしっかりやっていただきたい。

○地域活性化の方策について、特に人口減少地域に対して、利用しやすい公共施設にしてほしい（土足とかトイレとかの改善）。

○少子高齢化対策を取り上げてほしい。

○コミュニティセンターの存続をお願いしたい。

○空き家問題をお願いしたい。

○卵と鶏の例もあり、どちらが先かわかりませんが、予算もあるとは思いますが、魅力があ

れば地域は発展すると思います。
○年寄りなので、理解速度が遅くて解りにくいところもあるが、参加してみて地域の実情も知る事が出来て良かった。
○防災無線の設置場所について　聞き取りにくい場所が塩田の一部にあるが、市内全体にもあるのではないか、調査をして対応していただきたい。
○市道、県道の草刈りをしていただきたい。歩道の中に草が生えているところもあるので早く対応していただきたい。
○市道伊賀線の中ほどに田からの洩れが常に道路に流入し、アスファルトは剥がれ水たまりとなっている。生活道であり田側に溝を設定してほしい。
○石城山の保全について　塩田老人クラブが年２回遊歩道整備をしている。高齢化で難しい。市としても対処をしてほしい。

（東荷コミュニティセンター）
○地域内の市道・県道、公共施設等の草刈り作業をお願いしたい。
里の厨、土地改良区、水と緑の会、法人つかり、東荷コミセンなどが連携して行って欲しいとのご意見を伺って、東荷コミセンとしては、これまでお祭りなどの年間行事のことだけに目を向けていたかもしれないと感じました。10年後の地域を考えて対策方法について話し合っていかないとならない時期にきていると思いました。実際、伊藤公園前の河川公園の除草作業についても考えたいです。
○議員活動の一つとして積極的にしてほしい。地域の代表であるので、市全体的に考えてほしい。議員はしっかりして頑張ってほしい。
○上関の中間貯蔵施設建設についての、各議員の意見を聞かしてほしかった。市議会の対応も示すべきです。
○報告会を年１回以上東荷コミセンで開催してほしい。おくやみ窓口の設置をよろしくお願いします。クマ対策をよろしくお願いします。マイクの調整をお願いします。

（中島田コミュニティセンター）
○高齢者福祉を取り込みましょう。
○いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。
○島田中学校地区においては小学校の統合が予定されているが、コミュニティセンターは継続するのか。統合していくのか。
○光駅整備は事業費に見合う効果があるのか。

（周防コミュニティセンター）
○ゴミの分別に関心を持っている。

〇周防地区の活性化について取り上げてほしい。ゴミの分別、外国の方に対しての対応問題の検討を。汲み取りや浄化槽のにおいを改善して欲しい（夏はにおいがひどい）。どのように人を増やすのか光市のＰＲを。
〇大変勉強になりました。先生方も議会で問題点の解決に努力してください。
〇もう少しＰＲしてください、資料は見ません。折角の会なので多くの方に出席してほしい。
〇意見交換会に時間をとっていただいてよかった。時間配分もちょうどよかった。